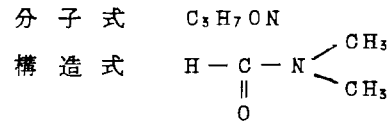


ジメチルホルムアミドの濃縮性試験成績報告書

1. 試験期間 昭和50年3月17日～昭和50年6月15日  
2. 試料名 ジメチルホルムアミド(試料№K-50)



3. 試験方法及び条件

環 保 業 第 5 号  
薬 発 第 615 号 } 魚介類の体内における化学物質の濃縮度試験による  
49基局第392号

3.1 試験装置及び機器

水系環境調節装置 流水式  
ガスクロマトグラフ 検出器 FID

3.2 試験条件

3.2.1 TLm 試験

(a) 試験魚

ヒメダカ平均体重 0.3 g 塩化第二水銀合格魚※  
※田端健二 用水と廃水 14, 1297~1303(1972)

(b) 分散剤

使用せず

(c) 試験温度

25 ± 2℃

(d) 結 果

48 TLm 9800 ppm

3.2.2 濃縮度試験

(a) 試験魚

コイ, 平均体重 約 30 g  
平均体長 約 10 cm

(b) 試験温度

25 ± 2℃

(c) 試験濃度

設定値

48 TLm 値は 9800 ppm (約 10000 ppm) であり

$\frac{1}{1000}, \frac{1}{10000}$  濃度区とした場合、10 ppm, 1 ppm

となるが、設定値に対し実測値は低くなる場合が多く

1 ppm では定量限界に近いため安全をみて 2 倍の濃度

とした。

第 1 濃度区 20 ppm

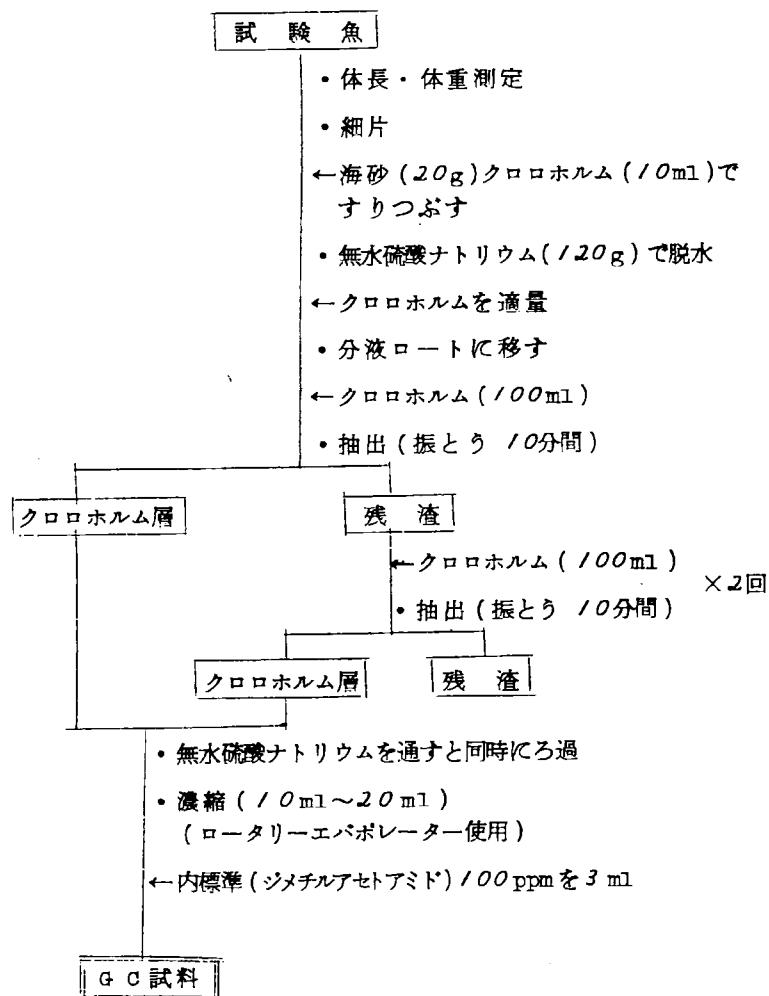
第 2 濃度区 2 ppm

実測値

表 1 / 濃縮倍率を求めるための平均濃度 (ppm)

	2 W	3 W	4 W	6 W	8 W
第 1 濃度区	18.2	17.7	18.0	17.5	17.6
第 2 濃度区	1.4	1.4	1.5	1.4	1.4

### 3.2.3 分析試料の前処理



(以下余白次頁に続く)

### 3.2.4 分析条件

#### 水分分析

ガスクロマトグラフ(GC)検出器FID

キャリアガス  $N_2$   $0.6 \text{ kg/cm}^2$

充てん剤 ツイン-60 10% ダイヤソリッドL

ガラスカラム  $2 \text{ mm}\phi \times 1 \text{ m}$

カラム温度  $80^\circ\text{C}$

#### 魚体分析

ガスクロマトグラフ(GC)検出器FID

キャリアガス  $N_2$   $1.0 \text{ kg/cm}^2$

充てん剤 テナックス GC

ガラスカラム  $2 \text{ mm}\phi \times 1 \text{ m}$

カラム温度  $135^\circ\text{C} \sim 170^\circ\text{C}$  昇温速度  $8^\circ\text{C/min}$

## 4 試験結果

表-2 濃縮倍率

区分	2W	3W	4W	6W	8W	付図	付表
第1濃度区	0.6	0.4	0.3	0.7	0.4	1, 3	3, 5
	0.7	0.5	0.4	0.8	0.3	4, 5	
第2濃度区	0.5	0.8	0.4	1.2	0.7	2, 3	4, 5
	0.3	0.7	0.6	0.5	0.7	4, 5	

### 5 その他

48 TLM 値は9800ppmであるが、設定濃度の計算上は10000ppmとして計算を行つた。

以 上